

フローレンス・ナイチンゲール博物館へようこそ

フローレンス・ナイチンゲールは、「ランプを持つ貴婦人」として伝説的な存在です。クリミア戦争では、数千の兵士達を看病するために看護師達を統率し、劣悪な医療環境からイギリス軍を救済することに貢献しました。また、先見の明のある保健医療の改革者、類い希なる運動家でもあり、ビクトリア朝の大英帝国のなかで、ビクトリア女王に次いで影響力のある女性でした。1910年に90歳でこの世を去った時、彼女の名は世界中に知れ渡っていました。

フローレンス・ナイチンゲール博物館は、「ランプを持つ貴婦人」の人生と時代へあなたをご案内します。フローレンスのストーリーは3つのパビリオンで展開されます。「金色のケージ」では彼女の幼少期、「天職」ではクリミア戦争での彼女の仕事、「改革とインスパイア」では医療改革のために彼女が行った活動をご紹介します。この博物館では、看護師や看護の姿がいたるところに展示されています。

フローレンスの両親は、上流階級出身で社交界に多くの人脈をもち、鉱山業を営み、裕福でした。両親は科学や芸術への関心も深く、貧しい人々を助ける宗教的寛容な精神の持ち主でした。フローレンスは年を重ねるごとに贅沢な生活や社交界の義務、彼女曰く「客間の専制君主」とらわれていると感じる様になりました。フローレンスの看護への強い思いと結婚の拒否に、彼女の両親はうろたえ、失望し、ソールズベリー病院での数カ月間の研修に参加することさえ反対しました。当時の病院は、不衛生かつ大変危険な場所で、看護師と言えば大酒飲みと悪評高い存在だったからです。

フローレンスは最終的に、カイザースベルトで看護を学ぶことが許されました。そこは、ドイツのデュッセルドルフに近い町で、プロテスタントの牧師夫妻が運営する病院・孤児院・大学がありました。彼女は薬や包帯交換について学び、四肢切断を見学し、傷病者と死にゆく人々の看病にあたりました。彼女はこれまでにないほど幸福であり、「人生を慈しむということについて、やっと理解した」と書き残しています。

1854年の夏、イギリスとフランスは同盟国のトルコとともに、ロシアに宣戦布告しました。帝政ロシアを攻撃するために、フランス人とトルコ人と共にクリミアの戦地に送られた数百の兵士が、瀕死の状態にありました。当時の戦時国務大臣であるシドニー・ハーバートはフローレンスに対し、女性看護師達を率いて救援に当たるよう依頼しました。当時、この提案は大変画期的で、多くの危険が伴うものでもありました。この要請を受けすぎさま、フローレンスと38名の勇敢な女性達は、多くの報道陣に囲まれながらスクタリ(現トルコイスタンブール郊外)に向けて出発しました。病院に到着したとき、彼女達は想像以上に深刻な状況を目の当たりにしました。食糧、毛布、ベッド等、あらゆるものが不足しており、負傷した兵士達は長旅の末に、不衛生かつ食物も充分に与えられていない状態で病院に運び込まれていたのです。

フローレンスは、適切な病院管理の必要性を強く実感しました。彼女は、衣服や寝具を洗浄するために看護師達と兵士の妻達を、トイレを清掃するために男性達をまとめながら、休みなく働きました。不足している物資を確保するために、シドニー・ハーバート宛てに数多くの手紙を書きました。そして、タイムズ紙の広告を通じて一般市民から募った義捐金や、自己の資金も投入し、清掃用ブラシ、バケツ、毛布、差し込み式便器、手術台等を購入しました。毎晩、数千もの負傷者が横たわる長い廊下を歩き続け、彼女は人々から「天使」と崇められました。しかし1855年の春、彼女は遂にクリミア熱に倒れ、あと少しで命を落とすところでした。その病から完全に回復することはありませんでしたが、彼女は仕事に戻り戦争が終わるまで働き続けました。

スクタリの病院が古い建物の野戦病院で、下水道は機能しておらず、巨大な汚水だめの真上に建てられていることを、フローレンスも知りませんでした。スコットランド人の技術者であるジョン・サザーランド率いる一団が1855年の3月に到着し、病院の建物と下水道を修復し、清潔な水が利用可能となりました。これにより、傷病兵士の死亡率が改善されました。フローレンスは、「サザーランドの衛生チームがイギリス軍を救った」と書き残しています。

スクタリでのフローレンスの活動は、患者ケアの範疇を超えていました。彼女は兵士達の序列に関係なく、平等に接し、彼らの家族の安否をも気かけました。お悔やみの手紙を親族へ書き送り、未亡人となった人達へ送金し、行方不明者や病気の人達についての質問にも答えました。フローレンスは兵士達のために読書室を設け、兵士は読み書きが出来ないと思っていた高官達を驚かせました。アルコールの代わりに非アルコール飲料を提供する「インカーマン(クリミアの地名)カフェ」をオープンしました。さらに、銀行システムを作り、兵士達が自分の収入を飲んだりギャンブルに使ってしまう前に、家族に送れるようにもしました。

クリミア戦争後の1856年の8月に、フローレンスはマスコミの目を避けるため「ミス スミス」と名乗って、イギリスへ帰還しました。病を患い、やせ細った彼女は、命を失った不幸な兵士達への悲しみと喪失感でいっぱいでした。「クリミアの地に

眠る可愛そうな人たち」と彼女は記しています。フローレンスに残された人生は長く無いことを周囲も実感しており、その限られた時間の中で兵士達の死を無駄にしないよう、努め励みました。

フローレンスはロンドンで生活し、病のために寝込みがちでしたが、彼女自身や支援者の為に根気強く働き続けました。表舞台からは身を潜めましたが、彼女自身の名声や威信を利用し、ビクトリア女王をはじめとする権力者へ保健医療改革の必要性を訴え続けました。クリミア戦争直後にビクトリア女王へ謁見した際、何が間違っていたのか、失敗から何を学ぶのかを検証するための軍の衛生に関する王立委員会の設立に向け、女王の支持をいただけるようにと働きかけました。

フローレンスは200冊以上もの本、小冊子、記事を執筆し、14,000通以上もの手紙を書き、それらは世界中に数多く残されています。看護分野以外でも、宗教、哲学、公衆衛生及び軍の衛生、病院、疫学統計、そしてインドについても執筆しました。一人の若い女性としても、旅の経験談や、中産階級の教養のある女性の人生における葛藤について書き残しました。

フローレンスの思想はこれまでの看護に対する社会の認識を変え、その功績は今日まで強く受け継がれています。人々の精神的・身体的健康を包括的にケアするという彼女の姿勢、患者ニーズへの理解が健康回復への鍵であるという強い信念は、その当時においては先行する考え方でした。

フローレンス・ナイチンゲールは看護の世界を開きました。多くの女性と男性が、彼女の思想や彼女に対する賞賛に動機づけられて看護師となり、彼女の思想を実践しました。今日では、世界中の看護師は同じ動機と使命感をもって、患者への看護に真剣に取り組んでいます。彼らの多くは自分の持っているスキルを実際に生かすため、または必要な教育を受けるために、国境を越えて活動をしています。

所在地

フローレンス・ナイチンゲール博物館

住所: 2 Lambeth Palace Road London SE1 7EW

電話: 020 7620 0374

URL: www.florence-nightingale.co.uk

ミュージアムショップ

新しくオープンしたギフトショップで素敵な品物を見つけて下さい

レンタルスペース

各種イベントや会議のために、本博物館と教育施設はレンタル可能となっております。

開館時間

毎日 午前10時-午後5時 (聖金曜日(グッドフライデー)、12月25日、12月26日は閉館します)

バリアフリー情報

博物館内はトイレの設備を含め車椅子ご利用の方々にも完全にアクセス可能です。博物館は聖トーマス病院内の駐車場レベルにあります。耳のご不自由な方々のためにループシステムを完備、そして全ての映像には字幕がついております。

アクセス

フローレンス・ナイチンゲール博物館はロンドン市内サウスバンクに位置し、ロンドンアイの近くで、国会議事堂の反対側にあります。

ご支援のお願い

フローレンス・ナイチンゲール博物館の発展のために、会員になっていただける方を募集しています。特典として、無料入館、内覧会・各種イベントへの招待等をご用意しております。あなたのご支援が、コレクションの充実やコレクションの管理保存方法の改善、展示プログラムの活性化につながります。詳細はメンバーシップ担当者までご連絡下さい(連絡先 020 7620 0374)